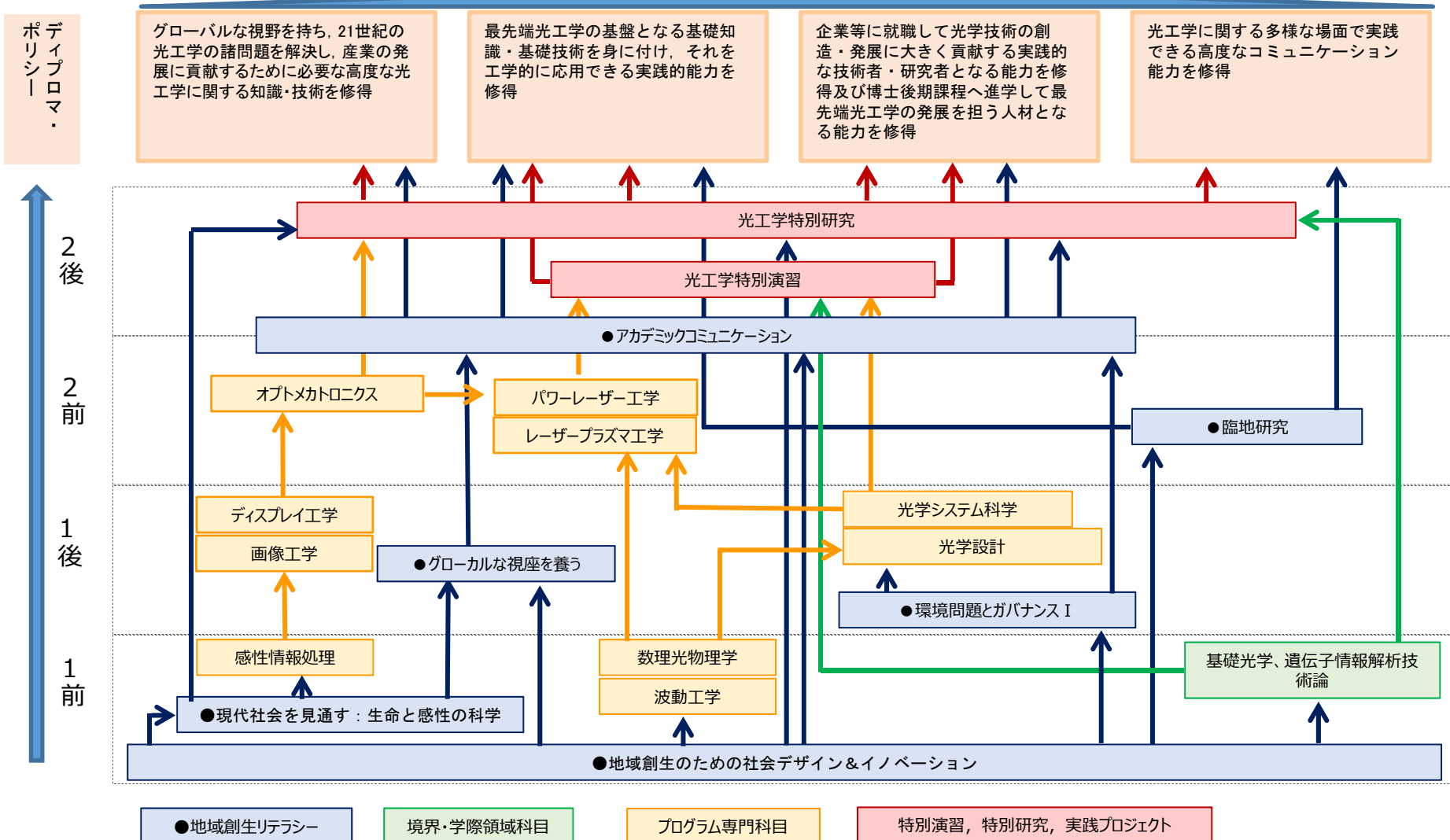


育成する人材像	養成する能力等		学年	科目名等	必要単位数	
	学際的思考力と実践力を養成	学際的思考力とプレゼンテーション能力を養成			4単位	2単位
光工学に関する高度な知識・技術的な能力を有し、豊かな技術的知識を有し、地域社会の光の創造に貢献できる技術者・研究者・発行人材を育成する。	学際的思考力と実践力を養成	地域課題に対する学際的思考力を養成	1 年 次	≪ 持続的な社会の創生に関して、多面的視野(根源的視野, 学際的視野, グローカルな視野)と学際的思考力を養成 ≫ 地域創生のための社会デザイン&イノベーション(2), 現代社会を見通す: 生命と感性の科学(1), グローカルな視座を養う(1)	4単位	地域創生リテラシー(10単位)
		学際的思考力とプレゼンテーション能力を養成		≪ 【文系科目群】 地域デザイン, グローバル, 多文化共生関連の能力を養成 ≫ 【地域デザイン関連】 実践経営マネジメント概論, 農業・農村の組織マネジメント, 観光地理学研究(各1)等 【グローバル関連】 防災と国際協力 I [E], 環境問題とガバナンス I [E], 人間の安全保障と国連 I [E] (各1)等 【多文化共生関連】 ジェンダーとアイデンティティ I [E], 多文化教育研究 I [E], シティズンシップ教育 I [E] (各1)等	2単位	
		地域課題への実践力(グローバルなコミュニケーション能力, チャレンジ精神, 協働能力)を養成		アカデミックコミュニケーション(2)	2単位	
	実践インターンシップ, 実践フィールドワーク, 創成工学プロジェクト演習, 国際インターンシップ, 臨地研究, International Political Economy [E], Global Management [E], Globalization and Society [E] (各2)	2単位				
	学位プログラムの専門性を養成	○グローバルな視野を持ち、21世紀の光工学の諸問題を解決し、産業の発展に貢献するために必要な高度な光工学に関する知識・技術を養成 ○最先端光工学の基盤となる基礎知識・基礎技術を身に付け、それを工学的に応用できる実践的能力を養成	2 年 次	【境界・学際領域科目 (1単位以上)】 基礎光学(1), 光学基盤技術(1), 遺伝子情報解析技術論(1), 細胞解析技術論(1), 質量分析装置解析技術論(1)	10 単位	プログラム科目(20単位)
		【プログラム専門科目 (6単位以上)】 Scientific Writing(1), 波動光学(2), 光計測(2), 光導波路デバイス(2), 情報光学(2) レーザープラズマ工学(2), 光学設計(2), 数理光物理学(2), 感性情報処理(2), 先端フォトニクス(2), オプトメカトロニクス(2), 光学システム科学(2), 可視化情報工学(2), 画像工学(2), ディスプレイ工学(2), パワーレーザー工学(2)		【修士論文】 光工学特別演習(4), 光工学特別研究(6)		
ディプロマ・ポリシー (修了認定の基準: 身につける能力等)		○グローバルな視野を持ち、21世紀の光工学の諸問題を解決し、産業の発展に貢献するために必要な高度な光工学に関する知識・技術を修得 ○最先端光工学の基盤となる基礎知識・基礎技術を身に付け、それを工学的に応用できる実践的能力を修得 ○企業等に就職して光学技術の創造・発展に大きく貢献する実践的な技術者・研究者となる能力を修得及び博士後期課程へ進学して最先端光工学の発展を担う人材となる能力を修得 ○光工学に関する多様な場面で実践できる高度なコミュニケーション能力を修得				
学 位		修 士 (光 工 学) 学 位 取 得				

※1. 科目名の区分 : 必修科目 , 選択必修科目 , 選択科目 ※2. ()内は単位数 ※3. プログラム科目はすべて英語対応可

育成する人材像

光学に関する高度な知識・技術を修得して、**実践的な技術者・研究者としての能力**を有し、広く世界の光学技術の創造・発展をリードして、持続可能な豊かな**地域社会の創生に貢献**できる人材



特別演習，特別研究は1～2の通年授業であるが，関連性を分かり易く示すために2年次後期のみ表示している

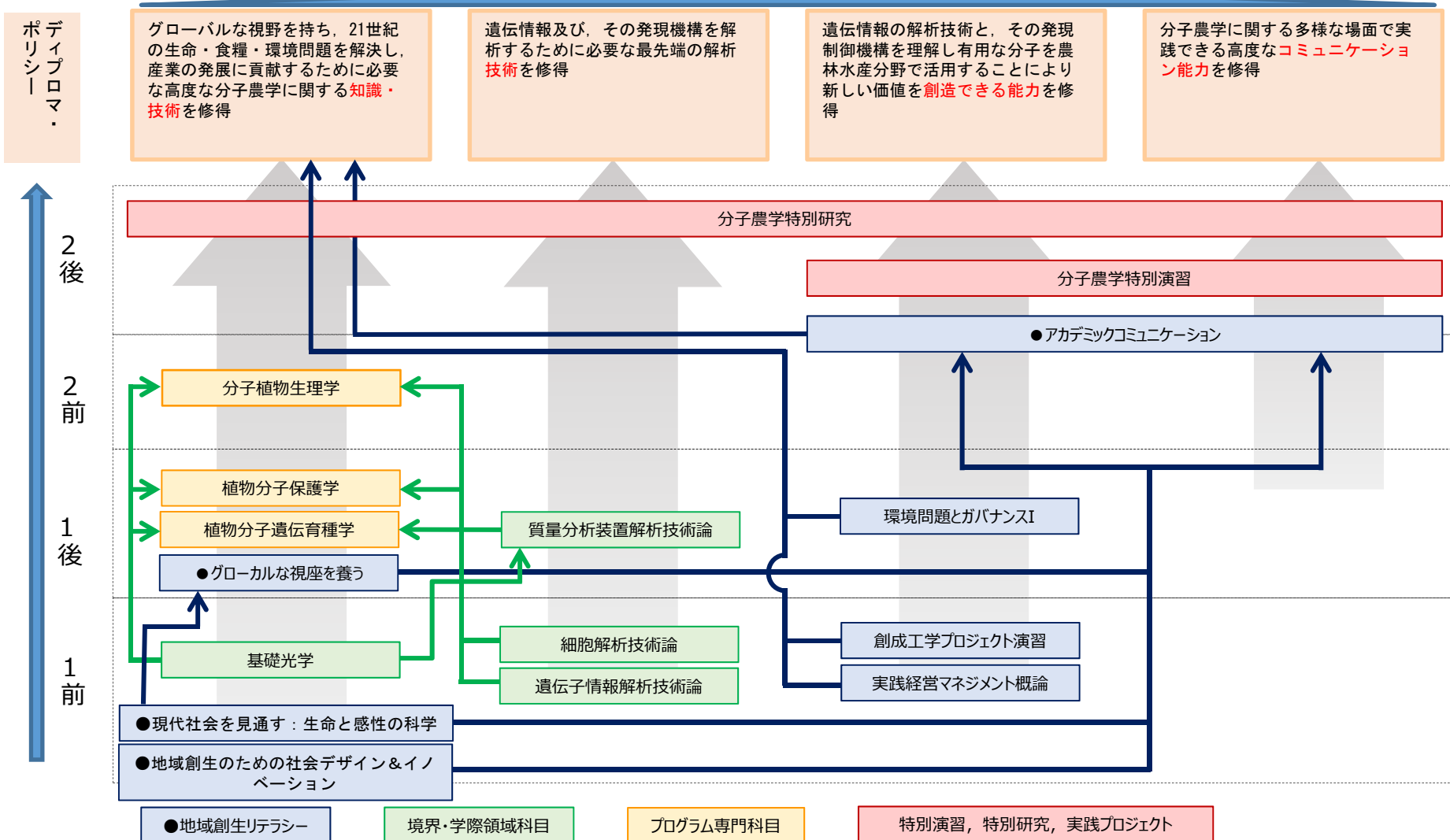
育成する人材像	養成する能力等	学年	科目名等	必要単位数	
持続可能な豊かに基づく地域社会の創生に貢献できる人材	学域課題に対する学際的思考力を養成 学際的思考力と実践力を養成 学際的思考力とプレゼンテーション能力を養成 地域課題への実践力(グローバルなコミュニケーション能力、チャレンジ精神、協働能力)を養成	1年次	< 持続的な社会の創生に関して、多面的視野(根源的視野、学際的視野、グローバルな視野)と学際的思考力を養成 > 地域創生のための社会デザイン&イノベーション(2), 現代社会を見通す: 生命と感性の科学(1), グローカルな視座を養う(1)	4単位	地域創生リテラシー(10単位)
			< 【文系科目群】 地域デザイン, グローバル, 多文化共生関連の能力を養成 > 【地域デザイン関連】 実践経営マネジメント概論, 農業・農村の組織マネジメント, 観光地理学研究(各1) 等 【グローバル関連】 防災と国際協力 I [E], 環境問題とガバナンス I [E], 人間の安全保障と国連 I [E] (各1) 等 【多文化共生関連】 ジェンダーとアイデンティティ I [E], 多文化教育研究 I [E], シティズンシップ教育 I [E] (各1) 等	2単位	
アカデミックコミュニケーション(2)	2単位				
実践インターンシップ, 実践フィールドワーク, 創成工学プロジェクト演習, 国際インターンシップ, 臨地研究, International Political Economy [E], Global Management [E], Globalization and Society [E] (各2)	2単位				
学位プログラムの専門性を養成	○グローバルな視野を持ち、21世紀の生命・食糧・環境問題を解決し、産業の発展に貢献するために必要な高度な分子農学に関する知識・技術を養成 ○遺伝情報及び、その発現機構を解析するために必要な最先端の解析技術を養成	2年次	【境界・学際領域科目(1単位以上)】 基礎光学(1), 光学基盤技術(1), 遺伝子情報解析技術論(1), 細胞解析技術論(1), 質量分析装置解析技術論(1)	10単位	プログラム科目(20単位)
			【プログラム専門科目(6単位以上)】 植物分子保護学/Molecular Aspects of Plant Protection(2), 植物分子遺伝育種学/Plant Molecular Genetics & Breeding(2), 分子植物生理学/Molecular Aspects of Plant Physiology(2), 分子進化生態学/Molecular Evolutionary Ecology(2), 動物分子生理学/Molecular Physiology in Animal Science(2), 動物生殖遺伝学/Genetics & Reproduction in Animal Science(2)		
他のプログラム科目の修得も認める (3単位まで)					
【修士論文】 分子農学特別演習(4), 分子農学特別研究(6)	10単位				
ディプロマ・ポリシー (修了認定の基準: 身につける能力等)	○グローバルな視野を持ち、21世紀の生命・食糧・環境問題を解決し、産業の発展に貢献するために必要な高度な分子農学に関する知識・技術を修得 ○遺伝情報及び、その発現機構を解析するために必要な最先端の解析技術を修得 ○遺伝情報の解析技術と、その発現制御機構を理解し有用な分子を農林水産分野で活用することにより新しい価値を創造できる能力を修得 ○分子農学に関する多様な場面で実践できる高度なコミュニケーション能力を修得				
学位	修士(分子農学) 学位取得				

※1. 科目名の区分 : 必修科目 , 選択必修科目 , 選択科目 ※2. ()内は単位数 ※3. プログラム科目はすべて英語対応可

育成する人材像

分子農学に関する高度な知識・技術を修得して、遺伝情報の解析技術とその発現機構に基づく**分子レベルの知見を応用し実践する能力**を有し、持続可能な豊かな**地域社会の創生に貢献**できる人材

具体例：企業・県試験場などでの研究開発業務



特別演習, 特別研究, 実践プロジェクトは1~2の通年授業であるが、関連性を分かり易く示すために2年次後期のみ表示している

育成する人材像	養成する能力等		学年	科目名等	必要単位数
<p>貢献できる人材 その化学に関する高度な知識・技術を修得して、多様な場面の創生において</p>	<p>（学域的課題を解決する実践力を養成） 地域課題に対する学際的思考力を養成</p>	<p>学際的思考力とプレゼンテーション能力を養成</p>	<p>1年次</p>	<p>＜ 持続的な社会の創生に関して、多面的視野(根源的視野, 学際的視野, グローカルな視野)と学際的思考力を養成 ＞</p> <p>地域創生のための社会デザイン&イノベーション(2), 現代社会を見通す: 生命と感性の科学(1), グローカルな視座を養う(1)</p>	4単位
				<p>＜ 【文系科目群】 地域デザイン, グローバル, 多文化共生関連の能力を養成 ＞</p> <p>【地域デザイン関連】 実践経営マネジメント概論, 農業・農村の組織マネジメント, 観光地理学研究 (各1) 等 【グローバル関連】 防災と国際協力 I [E], 環境問題とガバナンス I [E], 人間の安全保障と国連 I [E] (各1) 等 【多文化共生関連】 ジェンダーとアイデンティティ I [E], 多文化教育研究 I [E], シティズンシップ教育 I [E] (各1) 等</p>	2単位
				<p>アカデミックコミュニケーション(2)</p>	2単位
				<p>実践インターンシップ, 実践フィールドワーク, 創成工学プロジェクト演習, 国際インターンシップ, 臨地研究, International Political Economy [E], Global Management [E], Globalization and Society [E] (各2)</p>	2単位
	<p>学位プログラムの専門性を養成</p>	<p>○21世紀の化学技術に関する諸問題を解決し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、物質化学や工学の高度な知識と技術を養成</p> <p>○物質環境化学の専門知識を高機能性成分開発や環境保全技術に活用できる主体的な行動力を養成</p>	2年次	<p>【境界・学際領域科目 (2単位以上)】 バイオデザイン・プロセス学(1), 環境分析化学(1), 化学システム工学(1), 物質プロセス工学(1), 分子生理化学(1), 界面化学(1), 食品機能科学(1)</p> <p>【プログラム専門科目 (4単位以上)】 物理化学要論(2), 分子構造化学(2), 分子機能化学(2), 物質・環境工学(2)</p> <p>他プログラムの科目の修得も認める (3単位まで)</p> <p>【修士論文】 物質環境化学特別演習(4) 物質環境化学特別研究(6)</p>	10単位
<p>ディプロマ・ポリシー (修了認定の基準: 身につける能力等)</p>	<p>○21世紀の化学技術に関する諸問題を解決し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、物質化学や工学の高度な知識と技術を修得</p> <p>○物質環境化学の専門知識を高機能性成分開発や環境保全技術に活用できる主体的な行動力を修得</p> <p>○物質化学に加え生命化学的な視座を持った分野横断的な創造的実践力をもって応用開発に取り組むことのできる能力を修得</p> <p>○物質環境化学に関する多様な場面で実践できる高度なコミュニケーション能力を修得</p>				
<p>学位</p>	<p>修士(工学) 学位取得</p>				

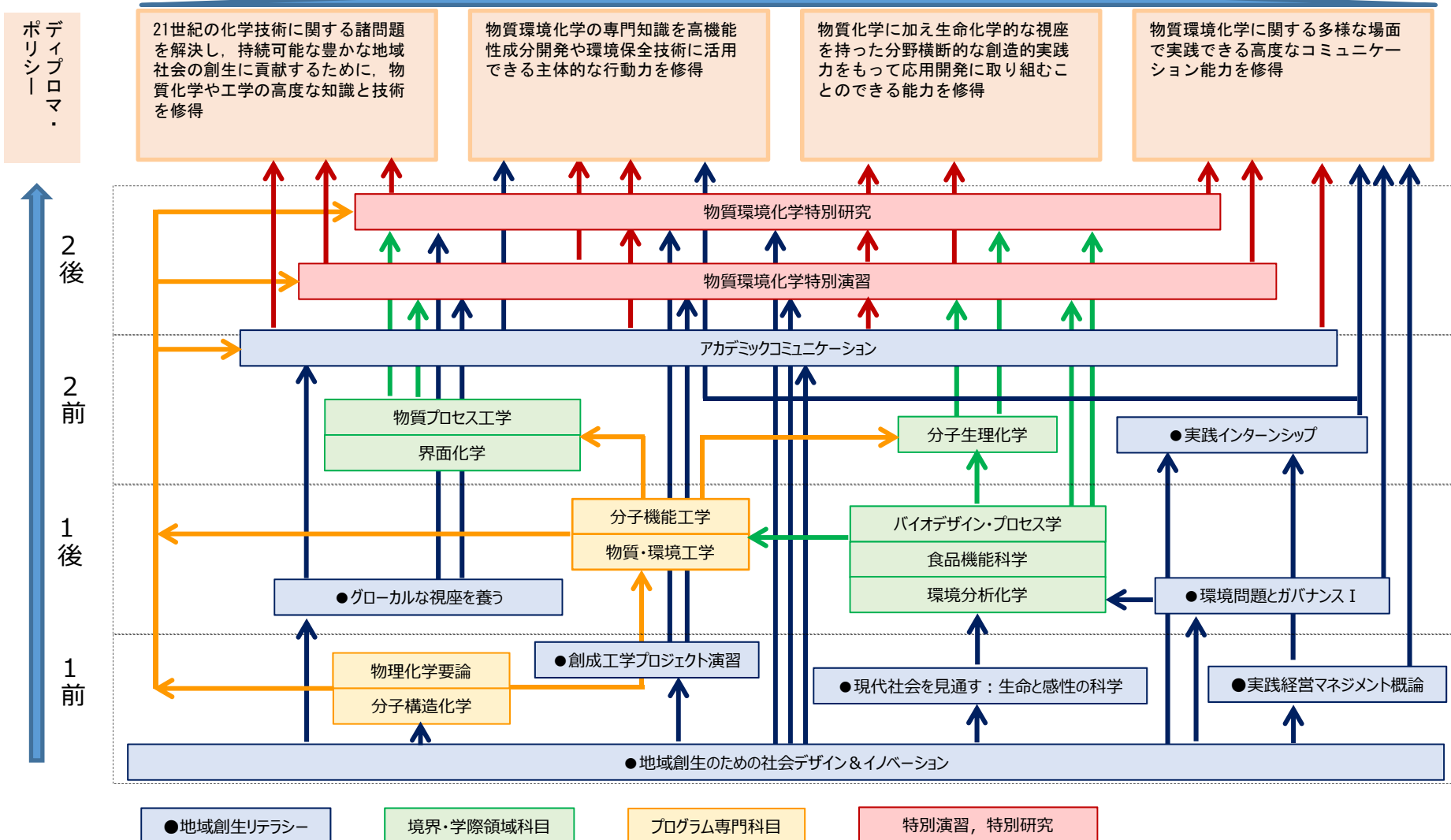
※1. 科目名の区分 : 必修科目 , 選択必修科目 , 選択科目 ※2. ()内は単位数 ※3. [E]は英語対応科目

育成する人材像

物質化学に関する高度な知識・技術を修得して、多様な場面においてそれを活用できる能力を有し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献できる人材

具体例：新素材開発や環境保全を支える研究者・技術者

63



特別演習, 特別研究は1~2の通年授業であるが, 関連性を分かり易く示すために2年次後期のみ表示している

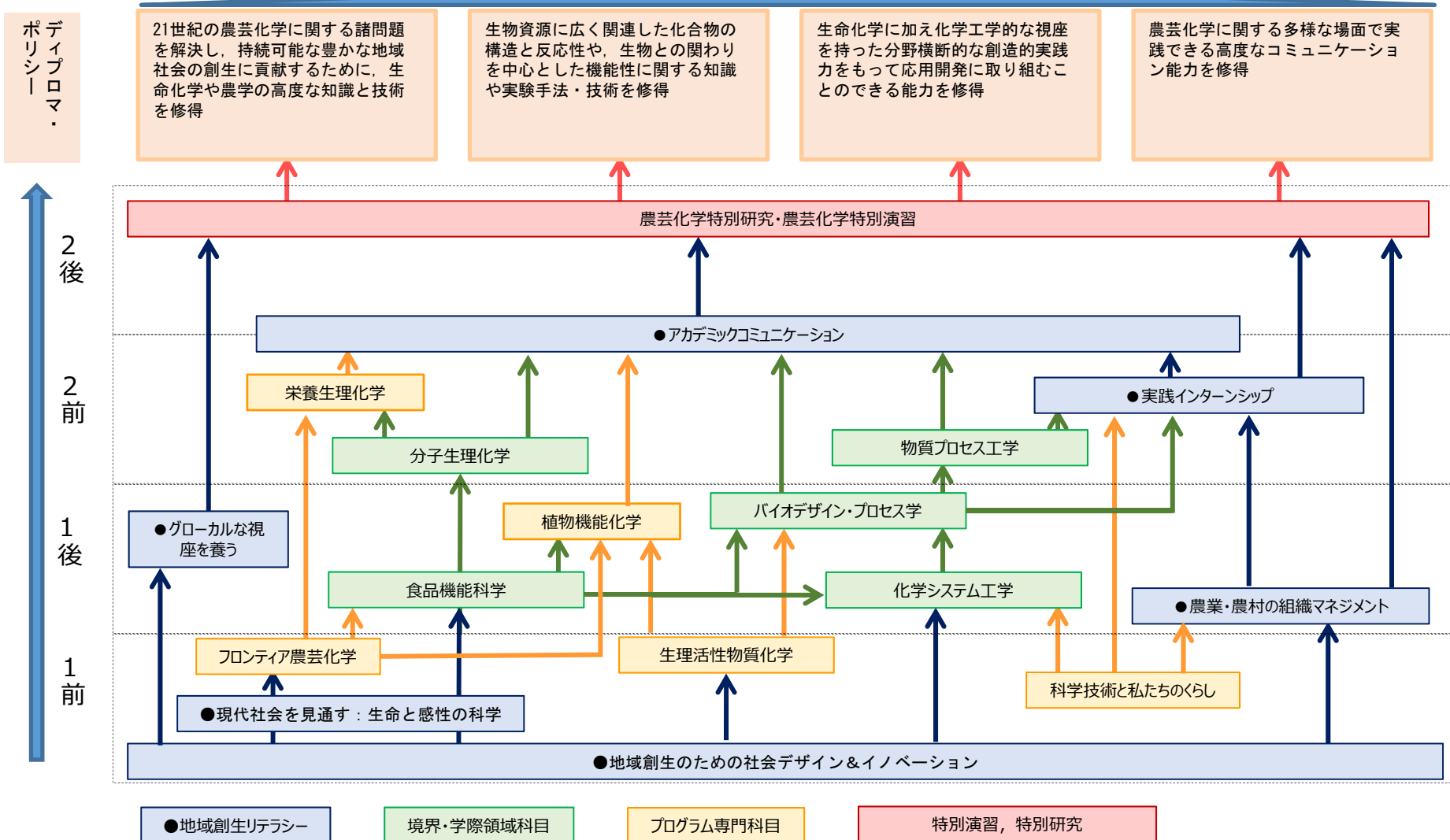
育成する人材像	養成する能力等	学年	科目名等	必要単位数
生命化学から貢献できる実践的な知識・技術を有し、修得して、マクロとミクロの地域社会	地域課題に対する学際的思考力を養成 学際的思考力とプレゼンテーション能力を養成	1年次	≪ 持続的な社会の創生に関して、多面的視野(根源的視野, 学際的視野, グローカルな視野)と学際的思考力を養成 ≫ 地域創生のための社会デザイン&イノベーション(2), 現代社会を見通す:生命と感性の科学(1), グローカルな視座を養う(1)	4単位
			≪ 【文系科目群】 地域デザイン, グローバル, 多文化共生関連の能力を養成 ≫ 【地域デザイン関連】 実践経営マネジメント概論, 農業・農村の組織マネジメント, 観光地理学研究 (各1) 等 【グローバル関連】 防災と国際協力 I [E], 環境問題とガバナンス I [E], 人間の安全保障と国連 I [E] (各1) 等 【多文化共生関連】 ジェンダーとアイデンティティ I [E], 多文化教育研究 I [E], シティズンシップ教育 I [E] (各1) 等	2単位
	学際的思考力とプレゼンテーション能力を養成	2単位		
	地域課題への実践力(グローバルなコミュニケーション能力, チャレンジ精神, 協働能力)を養成	2単位		
学位プログラムの専門性を養成	○21世紀の農芸化学に関する諸問題を解決し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、生命化学や農学の高度な知識と技術を養成 ○生物資源に広く関連した化合物の構造と反応性や、生物との関わりを中心とした機能性に関する知識や実験手法・技術を養成	2年次	【境界・学際領域科目 (2単位以上)】 バイオデザイン・プロセス学(1), 環境分析化学(1), 化学システム工学(1), 物質プロセス工学(1), 分子生理化学(1), 界面化学(1), 食品機能科学(1)	10単位
			【プログラム専門科目 (4単位以上)】 フロンティア農芸化学(2), 生理活性物質化学[E](2), 栄養生理化学[E](2), 植物機能化学[E](2), 科学技術と私たちの暮らし(2)	
			他プログラムの科目の修得も認める (3単位まで)	10単位
ディプロマ・ポリシー (修了認定の基準:身につける能力等)		○21世紀の農芸化学に関する諸問題を解決し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、生命化学や農学の高度な知識と技術を修得 ○生物資源に広く関連した化合物の構造と反応性や、生物との関わりを中心とした機能性に関する知識や実験手法・技術を修得 ○生命化学に加え化学工学的な視座を持った分野横断的な創造的実践力をもって応用開発に取り組むことのできる能力を修得 ○農芸化学に関する多様な場面で実践できる高度なコミュニケーション能力を修得		
学位		修士(農学) 学位取得		

※1. 科目名の区分 : 必修科目 , 選択必修科目 , 選択科目 ※2. ()内は単位数 ※3. [E]は英語対応科目

育成する人材像

生命化学に関する高度な知識・技術を修得して、**マクロとミクロの視点から取り組む実践的な能力**を有し、持続可能な豊かな**地域社会の創生に貢献**できる人材

具体例：機能性素材の開発、持続可能な食品産業界の創造



特別演習、特別研究は1～2の通年授業であるが、関連性を分かり易く示すために2年次後期のみ表示している

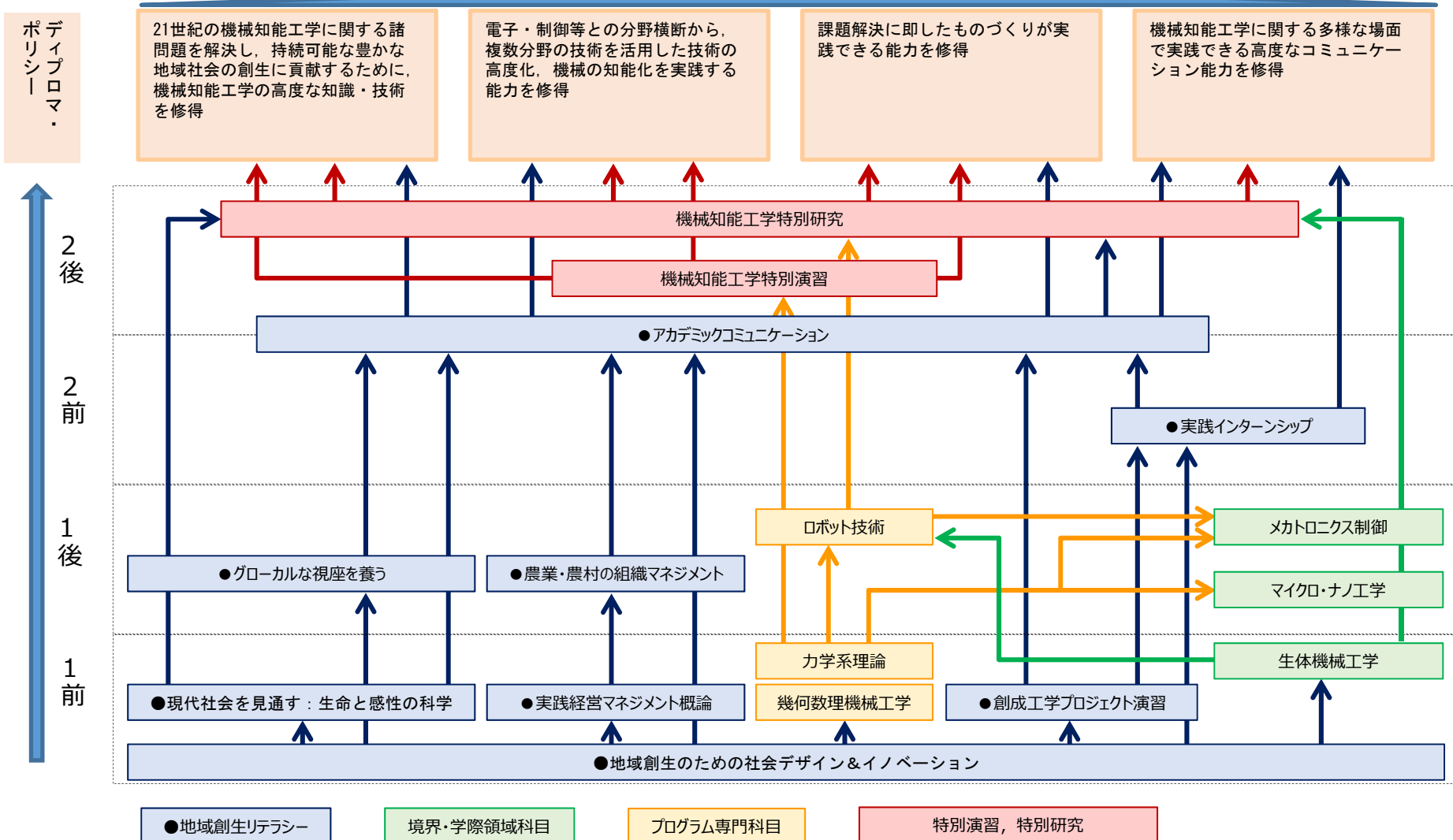
育成する人材像	養成する能力等	学年	科目名等	必要単位数	
創研機 生究械 に者知 貢・能 献・技 でき術 る者関 とるに 人し高 材て度 の能 力識 を・有 術を 持修 続可 可能 な豊 か国際 な的に 域通 社用 会す の	(学地 際域 研課 究思 科考 共力 通)と 実決 践する 力ため をに 養成 に必要 な	1 年 次	≪ 持続的な社会の創生に関して、多面的視野(根源的視野, 学際的視野, グローカルな視野)と学際的思考力を養成 ≫ 地域創生のための社会デザイン&イノベーション(2), 現代社会を見通す: 生命と感性の科学(1), グローカルな視座を養う(1)	4 単 位	地域 創生 リテ ラシー (10 単 位)
			≪ 【文系科目群】 地域デザイン, グローバル, 多文化共生関連の能力を養成 ≫ 【地域デザイン関連】 実践経営マネジメント概論, 農業・農村の組織マネジメント, 観光地理学研究 (各1) 等 【グローバル関連】 防災と国際協力 I [E], 環境問題とガバナンス I [E], 人間の安全保障と国連 I [E] (各1) 等 【多文化共生関連】 ジェンダーとアイデンティティ I [E], 多文化教育研究 I [E], シティズンシップ教育 I [E] (各1) 等	2 単 位	
学際的思考力とプレゼンテーション能力を養成 地域課題への実践力(グローバルなコミュニケーション能力, チャレンジ精神, 協働能力)を養成	2 単 位	アカデミックコミュニケーション(2)	2 単 位		
実践インターンシップ, 実践フィールドワーク, 創成工学プロジェクト演習, 国際インターンシップ, 臨地研究, International Political Economy [E], Global Management [E], Globalization and Society [E] (各2)	2 単 位	【境界・学際領域科目 (2単位以上)】 材料組織評価学[E](2), 生体機械工学(2), マイクロ・ナノ工学[E](2), メカトロニクス制御(2)	1 0 単 位	プ ロ グ ラ ム 科 目 (20 単 位)	
○21世紀の機械知能工学に関する諸問題を解決し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、機械知能工学の高度な知識・技術を養成 ○電子・制御等との分野横断から、複数分野の技術を活用した技術の高度化、機械の知能化を実践する能力を養成	【プログラム専門科目 (4単位以上)】 実験流体力学[E](2), 材料・接合工学[E](2), 生産技術工学(2), 先端精密加工工学(2), 成形プロセス工学(2), 力学系理論[E](2), 確率システム理論(2), ロボット技術(2), 知能ロボット(2), 幾何数理機械工学[E](2), 非線形現象の幾何学 I (2), 非線形現象の幾何学 II (2)	他プログラムの科目の修得も認める (2単位まで)	1 0 単 位		
【修士論文】 機械知能工学特別演習(4), 機械知能工学特別研究(6)	1 0 単 位				
ディプロマ・ポリシー (修了認定の基準: 身につける能力等)	○21世紀の機械知能工学に関する諸問題を解決し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、機械知能工学の高度な知識・技術を修得 ○電子・制御等との分野横断から、複数分野の技術を活用した技術の高度化、機械の知能化を実践する能力を修得 ○課題解決に即したものづくりが実践できる能力を修得 ○機械知能工学に関する多様な場面で実践できる高度なコミュニケーション能力を修得				
学 位	修 士 (工 学) 学 位 取 得				

※1. 科目名の区分 : 必修科目 , 選択必修科目 , 選択科目 ※2. ()内は単位数 ※3. [E]は英語対応科目

育成する人材像

知能機械に関する高度な知識・技術を修得して、**国際的に通用する研究者・技術者としての能力**を有し、持続可能な豊かな**地域社会の創生に貢献**できる人材

具体例：IoT時代に対応した、ロボット、医療福祉機器などの次世代機械の研究・開発人材



特別演習, 特別研究は1~2の通年授業であるが, 関連性を分かり易く示すために2年次後期のみ表示している

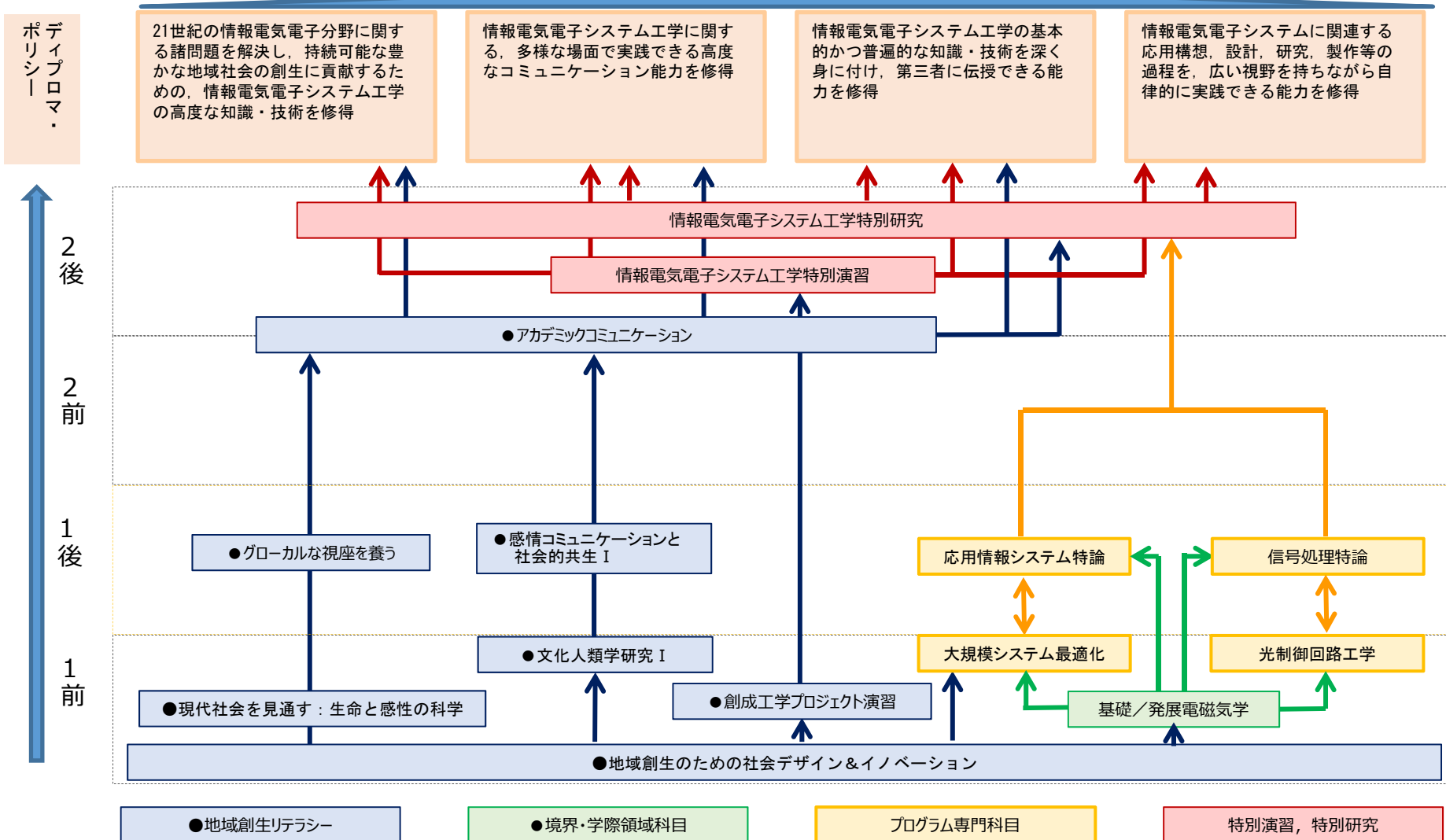
育成する人材像	養成する能力等	学年	科目名等	必要単位数	
定に電 立通気 か用・ らす電 持子 る統研 可究情 能者報 な・・ 豊技通 かな者 しとに 地関 域し 創生 の 高に 能度 な知 識を 有識 でき る・ 新た な修 得し て、 国 際 的 的	学 地 際 域 科 課 共 題 通 考 考 力 力 を と 解 実 決 践 する 力 た を め に 必 成 要 な	1 年 次	< 持続的な社会の創生に関して、多面的視野(根源的視野、学際的視野、グローバルな視野)と学際的思考力を養成 > 地域創生のための社会デザイン&イノベーション(2), 現代社会を見通す:生命と感性の科学(1), グローカルな視座を養う(1)	4 単 位	地 域 創 生 リ テ ラ シー (10 単 位)
			< 【文系科目群】 地域デザイン, グローバル, 多文化共生関連の能力を養成 > 【地域デザイン関連】 実践経営マネジメント概論, 農業・農村の組織マネジメント, 観光地理学研究(各1)等 【グローバル関連】 防災と国際協力 I [E], 環境問題とガバナンス I [E], 人間の安全保障と国連 I [E] (各1)等 【多文化共生関連】 ジェンダーとアイデンティティ I [E], 多文化教育研究 I [E], シティズンシップ教育 I [E] (各1)等	2 単 位	
			学際的思考力とプレゼンテーション能力を養成	2 単 位	
			地域課題への実践力(グローバルなコミュニケーション能力, チャレンジ精神, 協働能力)を養成	2 単 位	
			実践インターンシップ, 実践フィールドワーク, 創成工学プロジェクト演習, 国際インターンシップ, 臨地研究, International Political Economy [E], Global Management [E], Globalization and Society [E] (各2)	2 単 位	
学 位 ブ ロ グ ラ ム の 専 門 性 を 養 成	○21世紀の情報電気電子分野に関する諸問題を解決し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、情報電気電子システム工学の高度な知識・技術を養成 ○情報電気電子システム工学の基本的かつ普遍的な知識・技術を深く身に付け、第三者に伝授できる能力を養成	2 年 次	【境界・学際領域科目 (2単位以上)】 基礎/発展 電磁気学[E], 量子エレクトロニクス(各2), エンジニアコーチング, 情報電気電子システム工学特別講義(各1)	10 単 位	プ ロ グ ラ ム 科 目 (20 単 位)
			【プログラム専門科目】 ●基礎科目 (2単位以上) 数理解析特論[E], 数理解析特論[E], 非線形解析特論[E], 応用数学特論[E] (各2) ●基盤要素技術科目 (2単位以上) 信号処理特論[E], ソフトウェア概論, データ工学[E], デジタル画像工学[E], 音響情報工学, 情報量統計学[E], 超伝導エレクトロニクス[E], スピントロニクス[E], 光制御回路工学, マイクロ波・ミリ波回路工学(各2), エネルギー科学[E](1), レーザー工学[E], 電気自動車[E], アドバンストパワーエレクトロニクス[E], ロバスト制御理論[E], 材料物性の量子論[E], ソリッドステートの物理(各2) ●システム応用技術科目 (2単位以上) 応用情報システム特論[E], 情報ネットワーク特論[E], 計算機アーキテクチャ特論[E](各2), スマートシティーテックロジー[E](1), 大規模システム最適化, システムバイオロジー, 画像復元処理特論[E], 感性情報処理システム, コンピュータグラフィックス特論, ネットワークコンピューティング特論(各2)		
			【修士論文】 情報電気電子システム工学特別演習(4), 情報電気電子システム工学特別研究(6)		
ディプロマ・ポリシー (修了認定の基準:身につける能力等)	○21世紀の情報電気電子分野に関する諸問題を解決し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、情報電気電子システム工学の高度な知識・技術を修得 ○情報電気電子システム工学の基本的かつ普遍的な知識・技術を深く身に付け、第三者に伝授できる能力を修得 ○情報電気電子システムに関連する応用構想, 設計, 研究, 製作等の過程を広い視野を持ち自律的に実践できる能力を修得 ○情報電気電子システム工学に関する多様な場面で実践できる高度なコミュニケーション能力を修得				
学 位	修 士 (工 学) 学 位 取 得				

※1. 科目名の区分 : 必修科目 , 選択必修科目 , 選択科目 ※2. ()内は単位数 ※3. [E]は英語対応科目

育成する人材像

電気・電子・情報・通信に関する高度な知識・技術を修得し、**国際的に通用する研究者・技術者としての能力**を有し、新たな問題発見と課題定立から持続可能な豊かな**地域創生に貢献**できる人材

具体例：「ヒト」と「モノ」が有機的に結びつくスマートな情報社会実現に貢献する



特別演習、特別研究は1～2の通年授業であるが、関連性を分かり易く示すために2年次後期のみ表示している

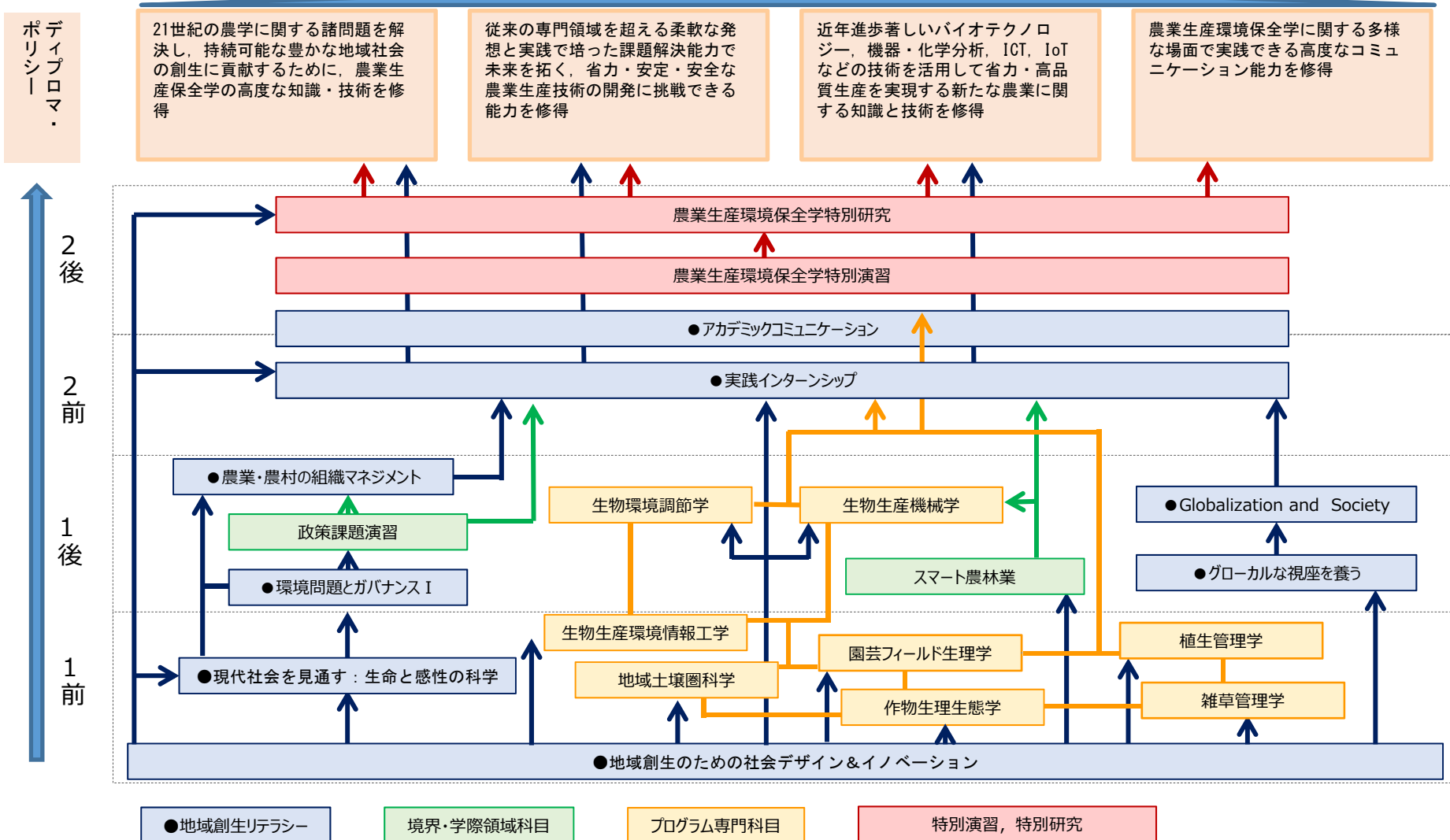
育成する人材像	養成する能力等	学年	科目名等	必要単位数	
<p>農産物の生産・加工・持続可能な資源・環境保全を、野生動物管理などに関する高度な知識・技術を有し、実践力を養成</p> <p>学際的思考力と実践力を養成</p> <p>学際的思考力とプレゼンテーション能力を養成</p> <p>地域課題への実践力(グローバルなコミュニケーション能力、チャレンジ精神、協働能力)を養成</p>	<p>学際的思考力と実践力を養成</p> <p>学際的思考力とプレゼンテーション能力を養成</p> <p>地域課題への実践力(グローバルなコミュニケーション能力、チャレンジ精神、協働能力)を養成</p>	1年次	<p>≪ 持続的な社会の創生に関して、多面的視野(根源的視野、学際的視野、グローバルな視野)と学際的思考力を養成 ≫</p> <p>地域創生のための社会デザイン&イノベーション(2), 現代社会を見通す: 生命と感性の科学(1), グローカルな視座を養う(1)</p> <p>≪ 【文系科目群】 地域デザイン, グローバル, 多文化共生関連の能力を養成 ≫</p> <p>【地域デザイン関連】 実践経営マネジメント概論, 農業・農村の組織マネジメント, 観光地理学研究 (各1) 等 【グローバル関連】 防災と国際協力 I [E], 環境問題とガバナンス I [E], 人間の安全保障と国連 I [E] (各1) 等 【多文化共生関連】 ジェンダーとアイデンティティ I [E], 多文化教育研究 I [E], シティズンシップ教育 I [E] (各1) 等</p> <p>アカデミックコミュニケーション(2)</p> <p>実践インターンシップ, 実践フィールドワーク, 創成工学プロジェクト演習, 国際インターンシップ, 臨地研究, International Political Economy [E], Global Management [E], Globalization and Society [E] (各2)</p>	4単位 2単位 2単位 2単位	<p>地域創生リテラシー(10単位)</p> <p>プログラム科目(20単位)</p>
		2年次	<p>【境界・学際領域科目(2単位)】 スマート農業(1), 政策課題演習(1)</p> <p>【プログラム専門科目(5単位以上)】 地球環境史特論, 作物生理生態学, 植物栄養・肥料学, 地域土壌園科学, 園芸作物生理学, 植物細菌学, 作物生産技術の現状と課題、展望, 園芸フィールド生理学, 作物品種改良学, 防除分子生態学, 生物とウイルスの関係学, 動物行動管理学, 動物形態学, ヒトと動物の関係学, 雑草管理学, 植生管理学, 野生動物管理学, 生物生産環境情報工学, 生物環境調理学, 生物生産機械学, 生物環境システム工学, 食品流通工学, 生産流通システム工学, 植物生産環境学, Scientific English, 農業生産環境保全学特別講義 I・II・III (各1)</p> <p>他プログラムの科目の修得も認める (3単位まで)</p> <p>【修士論文】 農業生産環境保全学特別演習(4), 農業生産環境保全学特別研究(6)</p>	10単位 10単位	
<p>ディプロマ・ポリシー (修了認定の基準: 身につける能力等)</p>		<p>○21世紀の農業に関する諸問題を解決し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、農業生産保全学の高度な知識・技術を修得 ○従来の専門領域を超える柔軟な発想と実践で培った課題解決能力で未来を拓く、省力・安定・安全な農業生産技術の開発に挑戦できる能力を修得 ○近年進歩著しいバイオテクノロジー、機器・化学分析、ICT、IoTなどの技術を活用して省力・高品質生産を実現する新たな農業に関する知識と技術を修得 ○農業生産環境保全学に関する多様な場面で実践できる高度なコミュニケーション能力を修得</p>			
学位	修士(農学) 学位取得				

※1. 科目名の区分 : 必修科目 , 選択科目 ※2. ()内は単位数 ※3. [E]は英語対応科目

育成する人材像

農産物の生産・加工・資源循環・環境保全・野生鳥獣管理等に関する高度な知識・技術を修得して、**省力・高品質生産を実現する新たな農業の確立に資する能力**を有し、持続可能な豊かな**地域社会の創生に貢献**できる人材

具体例：高品質な農業生産・・・持続可能な豊かな地域社会の創生



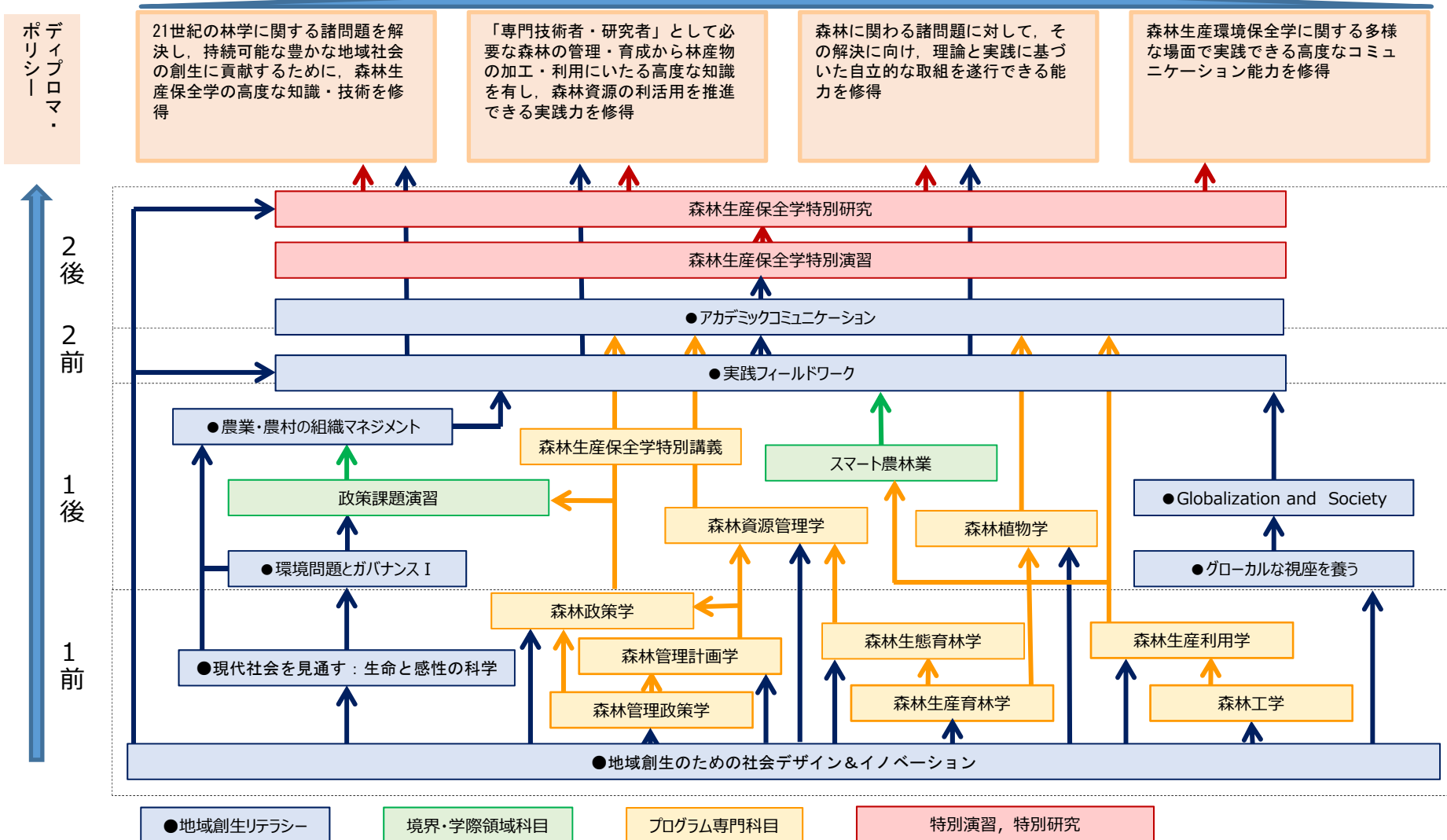
特別演習、特別研究は1～2の通年授業であるが、関連性を分かり易く示すために2年次後期のみ表示している

育成する人材像

森林・林業に関する高度な知識・技術を修得して、**森林と人間の多様で持続的な関係の構築や森林資源の利活用に資する能力**を有し、持続可能な豊かな**地域社会の創生**に貢献できる人材

具体例：森林の管理・育成・・・持続可能な豊かな地域社会の創生

73



特別演習, 特別研究は1~2の通年授業であるが、関連性を分かり易く示すために2年次後期のみ表示している

教員異動表

【地域の変革をリードする「知の拠点」形成】



専攻・プログラム	人数	地域創生科学研究科																教育学 研究科	
		社会デザイン科学専攻								工農総合科学専攻								教育実践高度化専攻	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16		(専攻共通)
		デザイン学 コミュニティ	農業・農村経済学	建築学	土木工学	農業土木学	グローバルエリア スタディーズ	多文化共生学	発達支援学 地域人間	光工学	分子農学	物質環境化学	農芸化学	機械知能工学	情報電気電子 システム工学	環境保全学 農業生産	森林生産保全学		
国際社会研究専攻	8	1 (1)				7 (5)													
国際文化研究専攻	8						8 (5)												
国際交流研究専攻	17					7 (5)	10 (10)												
学校教育専攻	51	9 (3)	1 (1)				14 (6)	13 (8)				1 (1)	1 (1)						12 (5)
機械知能工学専攻	17												17 (15)						
電気電子システム工学専攻	19								1 (1)					18 (18)					
物質環境化学専攻	19										19 (19)								
地球環境デザイン学専攻	26	1 (1)		12 (12)	13 (12)														
情報システム科学専攻	18								2 (2)					16 (16)					
先端光工学専攻	9								9 (9)										
(工学研究科全専攻共通)	2																	2 (2)	
生物生産科学専攻	42									14 (14)		12 (12)				16 (16)			
農業環境工学専攻	12					6 (6)									6 (6)				
農業経済学専攻	10	1 (1)	9 (9)																
森林科学専攻	11											2 (2)					9 (9)		
※新規採用 (地域デザイン科学部他)	20	7 (7)				2 (1)		1	1 (1)	1 (1)	1 (1)		2 (2)	2 (2)	2 (2)				1
※(大学院非担当)	3													1 (1)				1	1
教育実践高度化専攻	8																		8 (2)
合計	300	19 (13)	10 (10)	12 (12)	13 (12)	6 (6)	16 (11)	32 (21)	14 (8)	13 (13)	15 (15)	20 (20)	15 (15)	20 (18)	37 (37)	24 (24)	9 (9)	3 (2)	22 (7)
		122 (93)								156 (153)									

※ 完成年度(H33.3.31)に在職している教員。()の数値は、博士の学位を有する教員を内数で表している。

専任教員年齢構成状況

【地域の変革をリードする「知の拠点」形成】



社会デザイン科学専攻

	職位	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～65歳	合計
コミュニティデザイン学 プログラム	教授		1	4	4	9
	准教授		7	1		8
	講師	1	1			2
	計	1	9	5	4	19
農業・農村経済学プログラム	教授				4	4
	准教授		2	3		5
	講師		1			1
	計		3	3	4	10
建築学プログラム	教授			4	1	5
	准教授		4	1		5
	助教	2				2
	計	2	4	5	1	12
土木工学プログラム	教授		1	1	2	4
	准教授		3	2		5
	助教	2	2			4
	計	2	6	3	2	13
農業土木学プログラム	教授		1			1
	准教授		2	2	1	5
	計		3	2	1	6
	グローバル・エリア スタディーズプログラム	教授			2	4
准教授			4	4		8
助教		1	1			2
計		1	5	6	4	16
多文化共生学プログラム	教授			8	6	14
	准教授		9	6	1	16
	講師	1	1			2
	計	1	10	14	7	32
地域人間発達支援学プログラム	教授			3	3	6
	准教授		3	3		6
	講師	1				1
	助教	1				1
計	2	3	6	3	14	
社会デザイン科学専攻合計	教授		3	22	24	49
	准教授		34	22	2	58
	講師	3	3			6
	助教	6	3			9
	計	9	43	44	26	122

工農総合科学専攻

	職位	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～65歳	合計
光工学プログラム	教授		1	3	1	5
	准教授		3	1		4
	助教	3	1			4
	計	3	4	5	1	13
分子農学プログラム	教授			3		3
	准教授	3	5	1		9
	講師		1			1
	助教	1	1			2
計	4	7	4		15	
物質環境化学プログラム	教授			4	2	6
	准教授		4	3	2	9
	助教	2	1	2		5
	計	2	5	9	4	20
農芸化学プログラム	教授			4	3	7
	准教授	1	3	2		6
	講師		1	1		2
	計	1	4	7	3	15
機械知能工学プログラム	教授			6	2	8
	准教授		4	3		7
	助教	2	1	2		5
	計	2	5	11	2	20
情報電気電子システム工学 プログラム	教授		2	8	5	15
	准教授		11	3	1	15
	助教	4	2	1		7
	計	4	15	12	6	37
農業生産環境保全学プログラム	教授			5	7	12
	准教授		2	5	1	8
	講師		1			1
	助教	3				3
計	3	3	10	8	24	
森林生産保全学プログラム	教授			2	2	4
	准教授		3			3
	講師		1			1
	助教		1			1
計		5	2	2	9	
(専攻共通)	教授					0
	准教授			1		1
	講師		1			1
	助教			1		1
計		1	2		3	
工農総合科学専攻合計	教授		3	35	22	60
	准教授	4	35	19	4	62
	講師		5	1		6
	助教	15	6	7		28
	計	19	49	62	26	156

※ 完成年度(H33.3.31)に在職している教員